

## 「都市と農山漁村の交流に関するアンケート」実施報告

三重県では、過疎化と高齢化が進む農山村や漁村を活性化するため、「都市と農山漁村（里）の交流」を進めています。「都市と農山漁村の交流」を盛んにしていくためには、三重県にお住まいの皆さんに農山漁村（里）の魅力を知っていただき、ファンになっていただくことが大切だと考えています。

そこで、このアンケートを通じて皆さんの率直なご意見をお伺いし、交流方策につなげていきたいと考えています。

### アンケートの概要

#### アンケート実施期間

平成23年8月30日（火）から平成23年9月20日（火）まで

#### 意見募集の結果

対象者数 1594  
回答者数 1114  
回答率 69.9%

#### 回答者属性

性別 【男性】 608名（54.6%） 【女性】 506名（45.4%）

#### 年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
101人	243人	293人	250人	166人	61人
9.1%	21.8%	26.3%	22.4%	14.9%	5.5%

#### 地域別

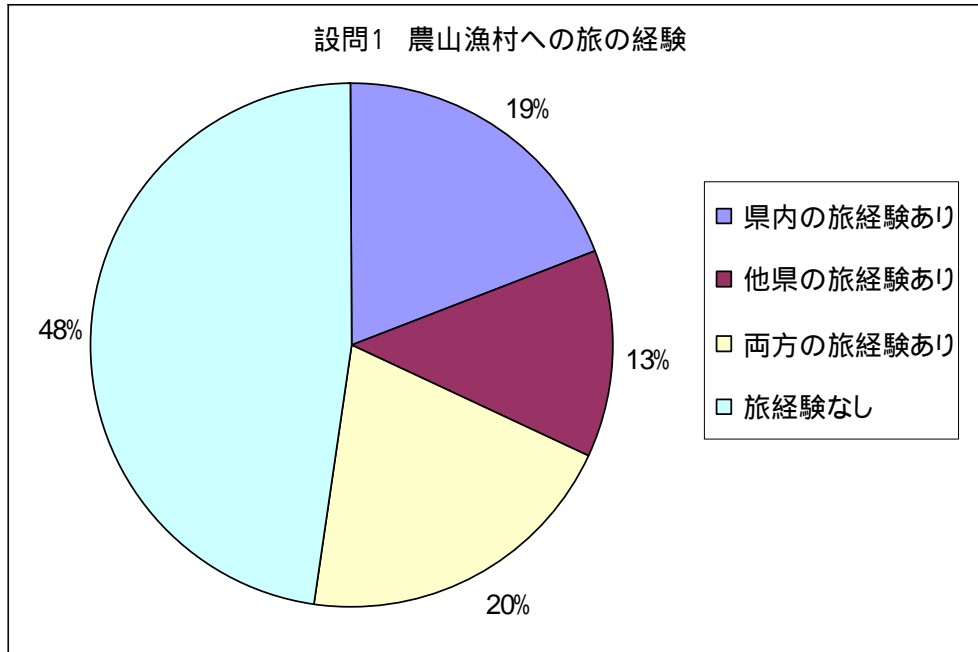
桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪地域
144人	254人	157人	166人	133人
12.9%	22.8%	14.1%	14.9%	11.9%

南勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域
129人	92人	16人	23人
11.6%	8.3%	1.4%	2.1%

### 【設問1】農山漁村への旅の経験

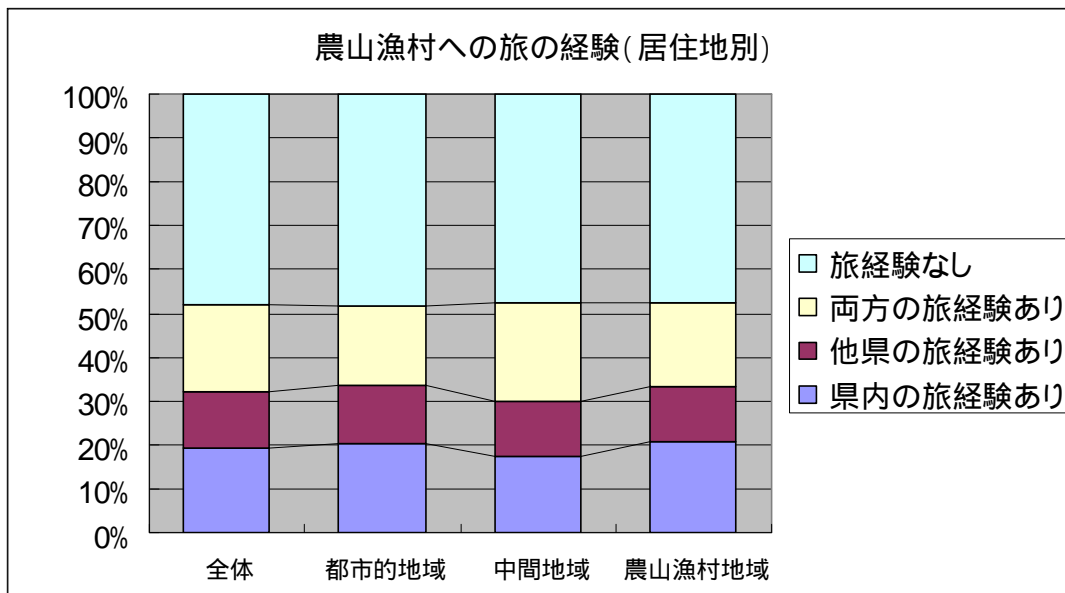
農山漁村地域へ旅行したことがあるかどうかを尋ねました。

県内、県外を含め、農山漁村地域へ旅行したことがある方は52%と、半数をやや上回りました。逆に言えば、農山漁村地域へ旅行した経験がない方が半数近くみえるという結果です。



これを、現在の居住地別に分析したものが、以下のグラフです。

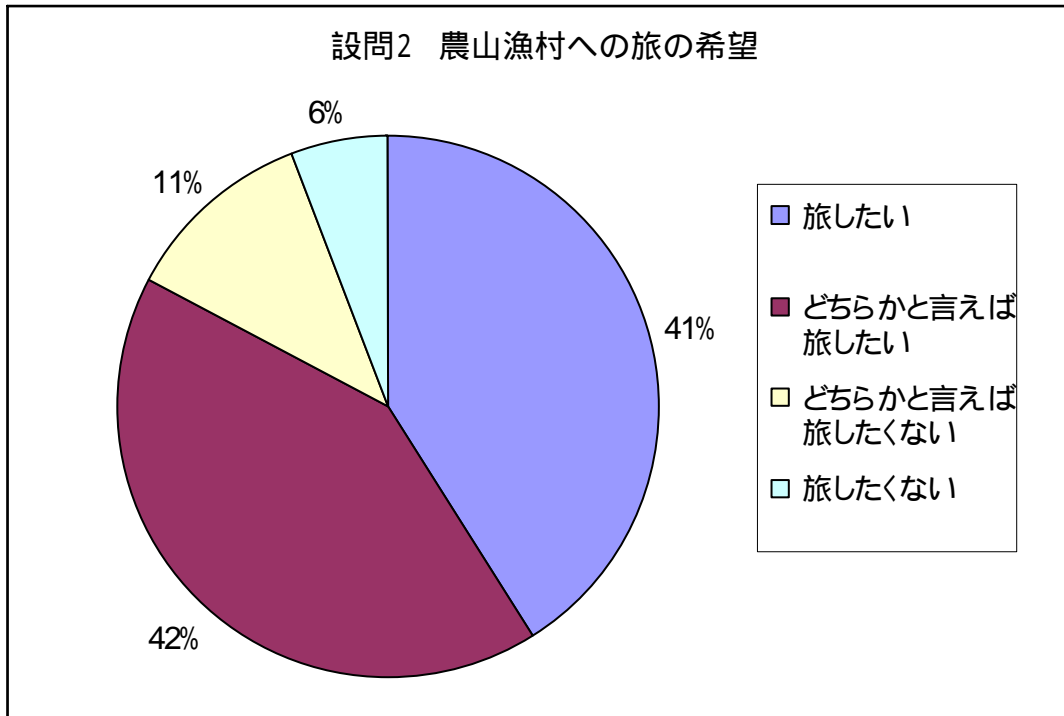
農山漁村地域へ旅の経験がない方の割合については、都市地域、農山漁村地域、中間地域という居住地による大きな差はないという結果です。



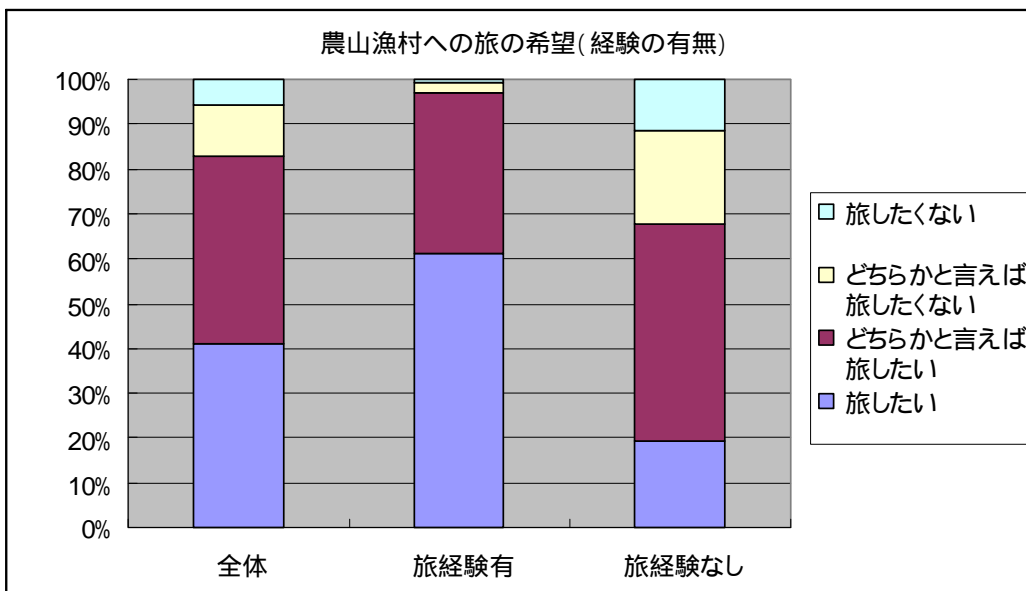
## 【設問2】農山漁村への旅の希望

農山漁村地域へ旅行してみたいかを尋ねました。

83%の方が、「旅してみたい」「どちらかと言えば、旅してみたい」を選択しています。農山漁村地域へ行ってみたいという希望を持っている方は、かなり多いという結果となりました。

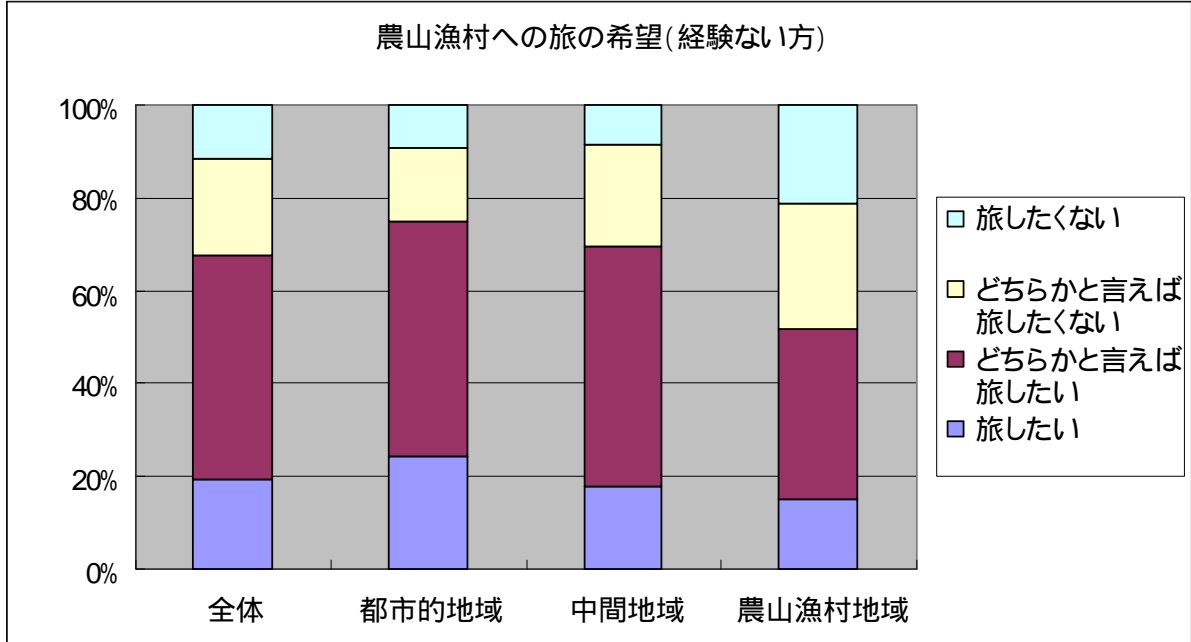


農山漁村地域への旅した経験により、差があるかどうかを見たのが以下のグラフです。やはり経験がある方は、再度旅したいと希望する方がほとんどです。経験のない方でも6割以上の方が、旅したいと考えているという結果です。



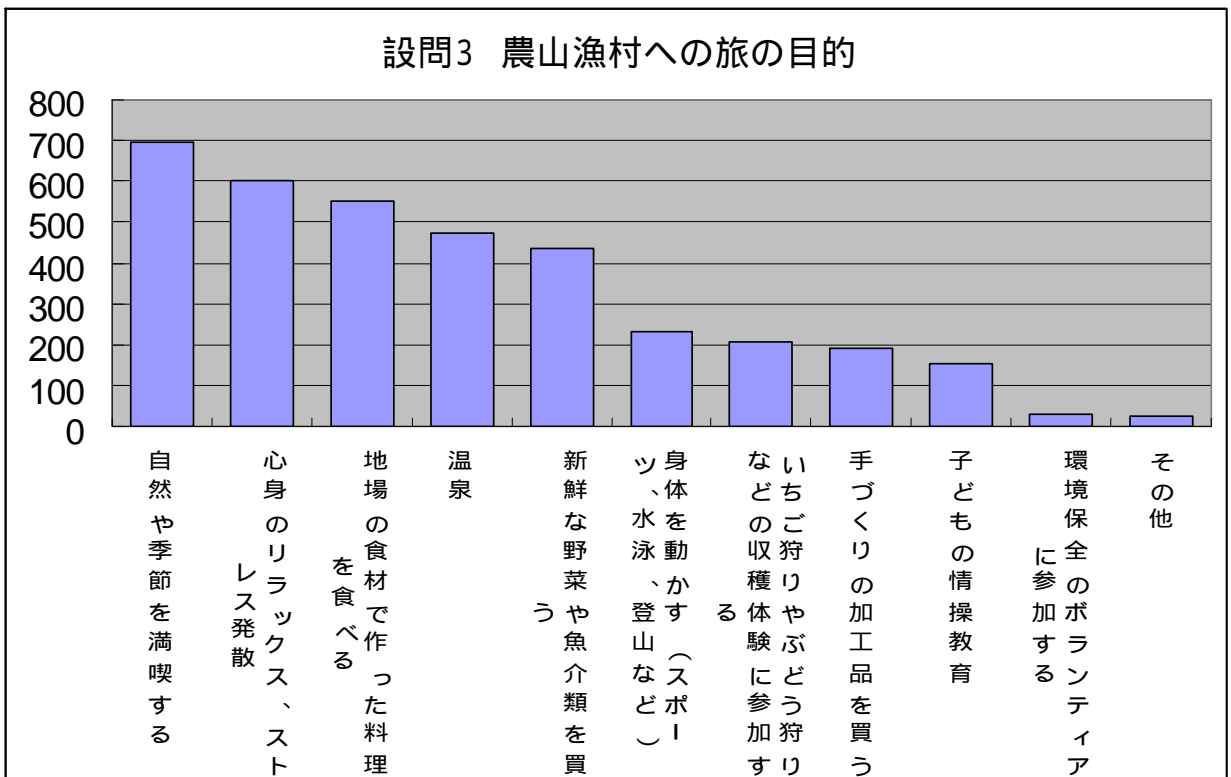
さらに、経験のない方で、居住地別で旅の希望を分析してみました。

都市的地域に住む方ほど、農山漁村地域への旅の希望が高いことが分ります。また、農山漁村地域に住む方は、「旅したくない」という方が特に多いです。これは、後の設問で説明しますが、「住んでいるところが、農山漁村だから」という回答が多かったようです。



### 【設問3】農山漁村地域への旅の目的

設問2で農山漁村地域へ「旅行してみたい」「どちらかと言えば、旅行してみたい」を選択された方に、その理由、目的を複数選択で選んでいただきました。



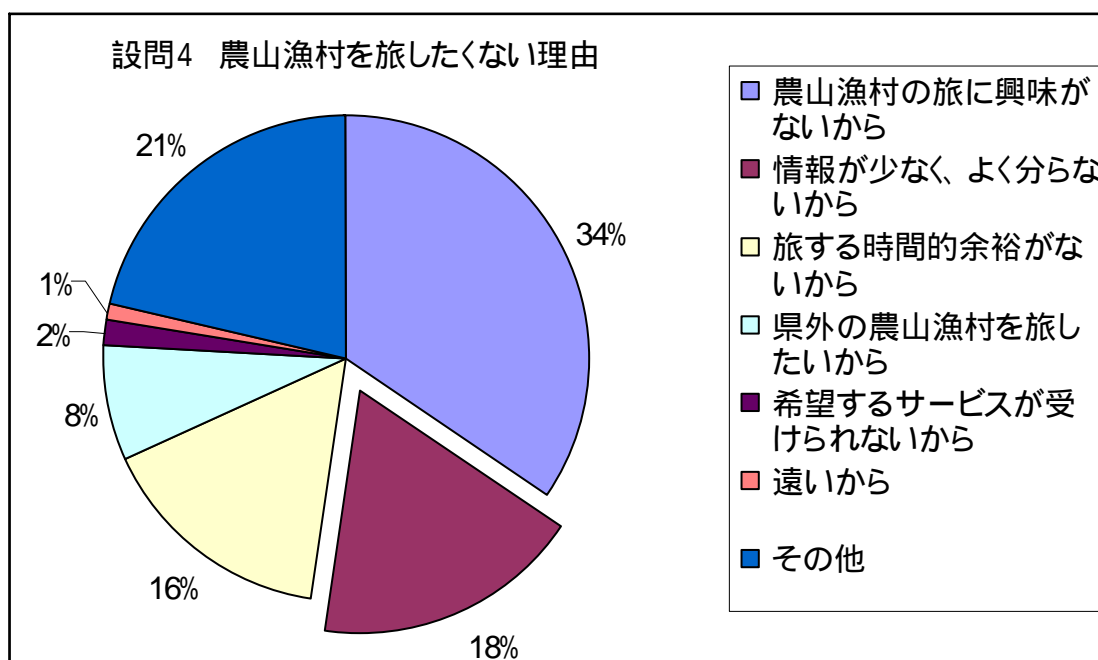
農山漁村の自然に魅力を感じたり、そこでのリラックスを求めている方多いことがわかります。

(株)じゃらんが行いました「じゃらん宿泊旅行調査」では、宿泊旅行の目的の1位は「地元の美味しいものを食べる」、2位は「温泉や露天風呂」という結果になっており、今回のアンケート結果と差が出ていて興味深いです。

なお、その他の回答としては、「絵画、スケッチ、写真」や「釣り」などの回答が多くありました。他には、「歩いてみると、自分流の小さな発見があり、とても嬉しくなる。予備知識なしで丸山千枚田に出くわした感動は忘れられない。」というように、自分なりの楽しみ方をされている方もいらっしゃいました。

#### 【設問4】農山漁村を旅したくない理由

設問2で農山漁村地域に「どちらかと言えば、旅したくない」「旅したくない」を選択された方に、そう思う最も大きな理由を1つ選んでいただきました。



最も多い理由は「農山漁村の旅に興味がないから」で、農山漁村地域を旅したくない方の約1/3が、この理由によるものでした。

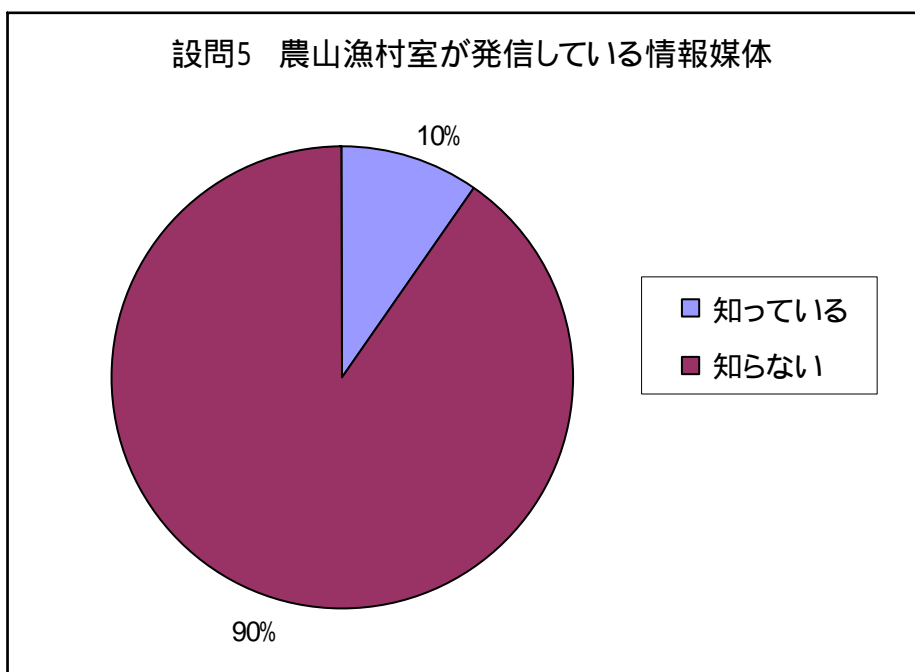
また、「情報が少なく、よく分らない」という方が18%みえることも重要です。「農山漁村の旅に興味がないから」という方も含め、農山漁村室から農山漁村の魅力や価値、資源といった情報発信が、まだまだ不十分である結果といえます。設問5の結果と併せて、今後の取組を強化していく必要があります。

その他も、回答数41(21%)を占めますが、その内の34件が「今、住んでいるところが農山漁村だから」という方でした。残りの理由としては、「子どもが小さいから」という子育て上の条件による方や、「虫が嫌いだから」という方もみえます。

#### 【設問5】情報媒体

情報媒体について、複数回答で尋ねました。

まず、「知らない」を回答された方が、対象者数との対比で90%に及びました。広く県民へ周知することの難しさを実感しました。今後も、あらゆる方法を通じて、農山漁村の情報を発信していく必要があります。



特に、設問2で「旅してみたい」「どちらかと言えば、旅してみたい」を選択された方の88.4%の方が「知らない」を選択されています。こうした、農山漁村へ行ってみたい、旅行したいと思われている方に、いかに情報を伝えていくかが今後の課題です。

居住地別で、「知らない」を選択された割合を計算すると、次の通りです。

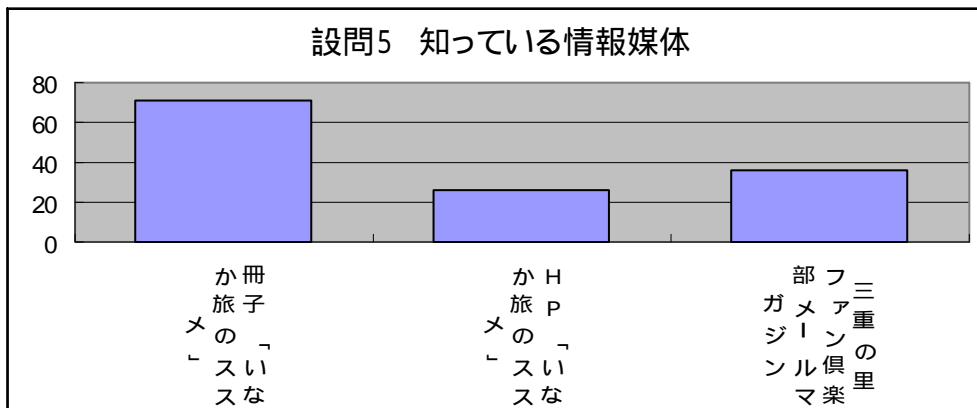
都市的地域・・・89.9%

中間地域・・・91.2%

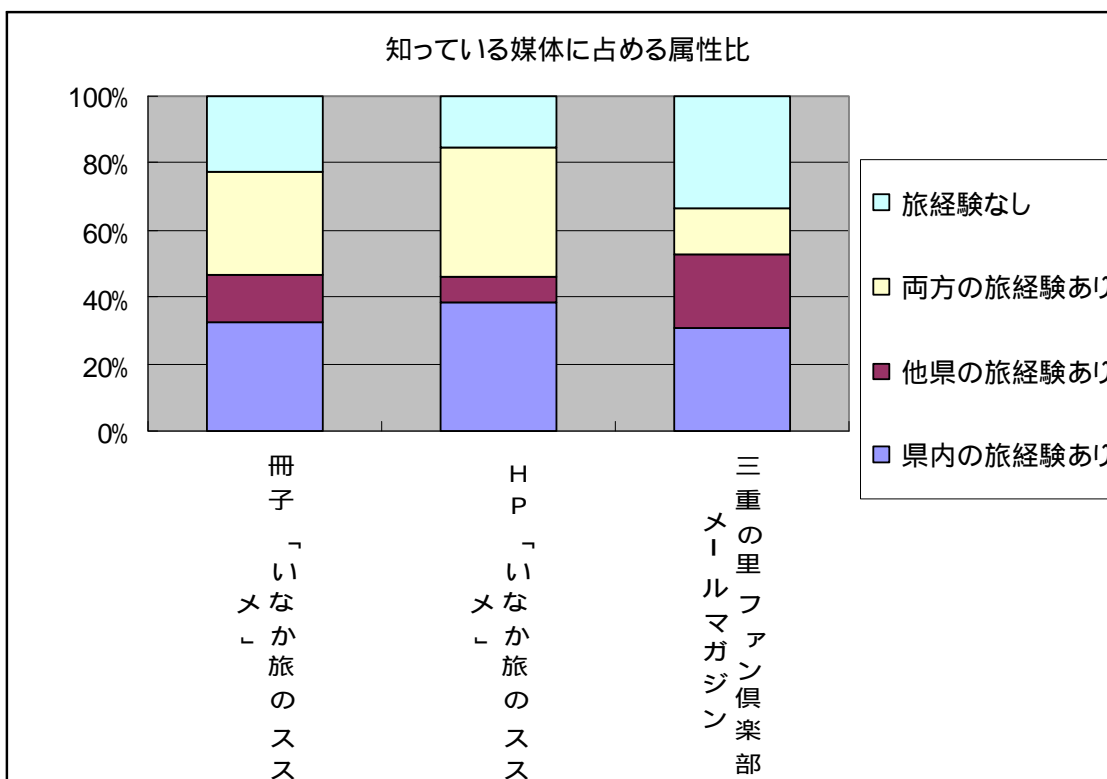
農山漁村地域・・・88.3%

若干ですが、都市と農山漁村の中間的地域で、「知らない」を選択された割合が高いことが分ります。

また、知っている情報媒体については、冊子「三重の里いなか旅のススメ」が最も多いという結果でした。ホーム・ページの方が認知が高いと考えていたため、意外な結果となりました。



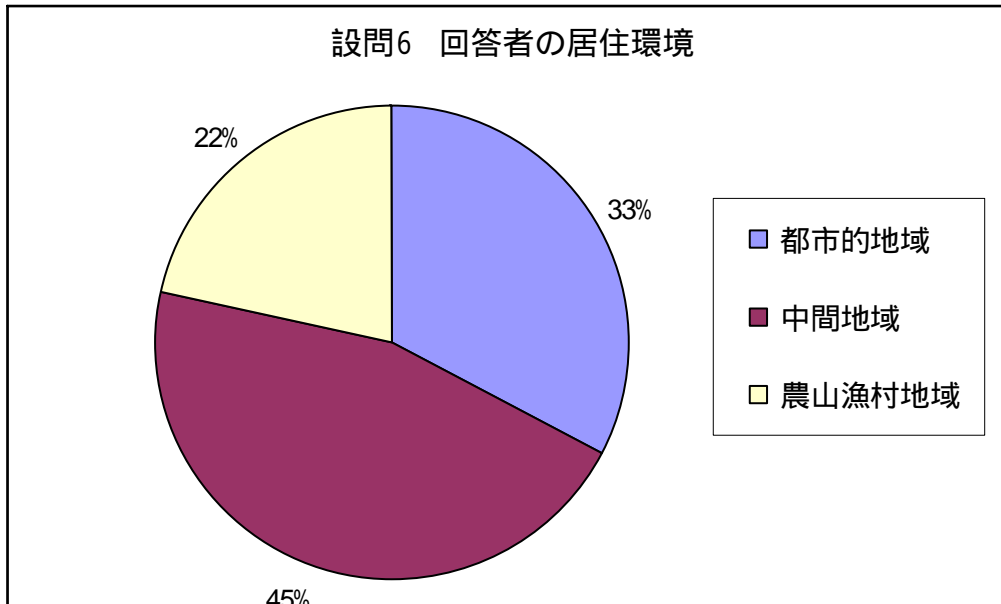
設問1の農山漁村への旅の経験別に、知っている情報媒体を抽出したのが以下のグラフです。サンプル数が少ないので、十分な分析とはいきませんが、媒体によって、認知されている属性に差が見られます。



### 【設問6】居住環境

アンケート回答者の居住環境をお尋ねしました。

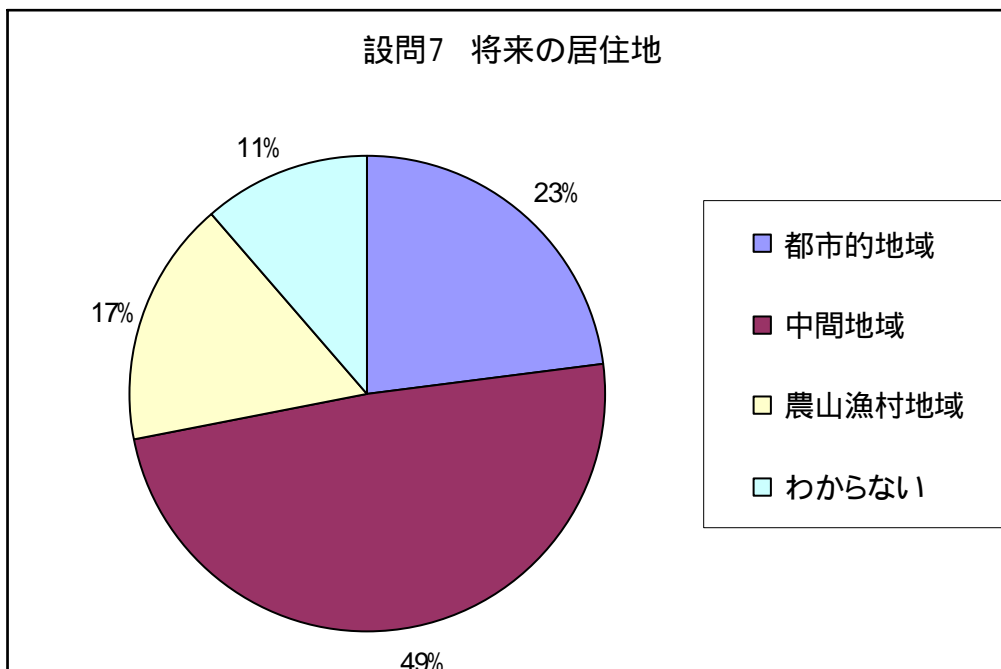
回答者の約半数が、都市と農山漁村の中間的地域にお住いということでした。



### 【設問7】将来の居住地

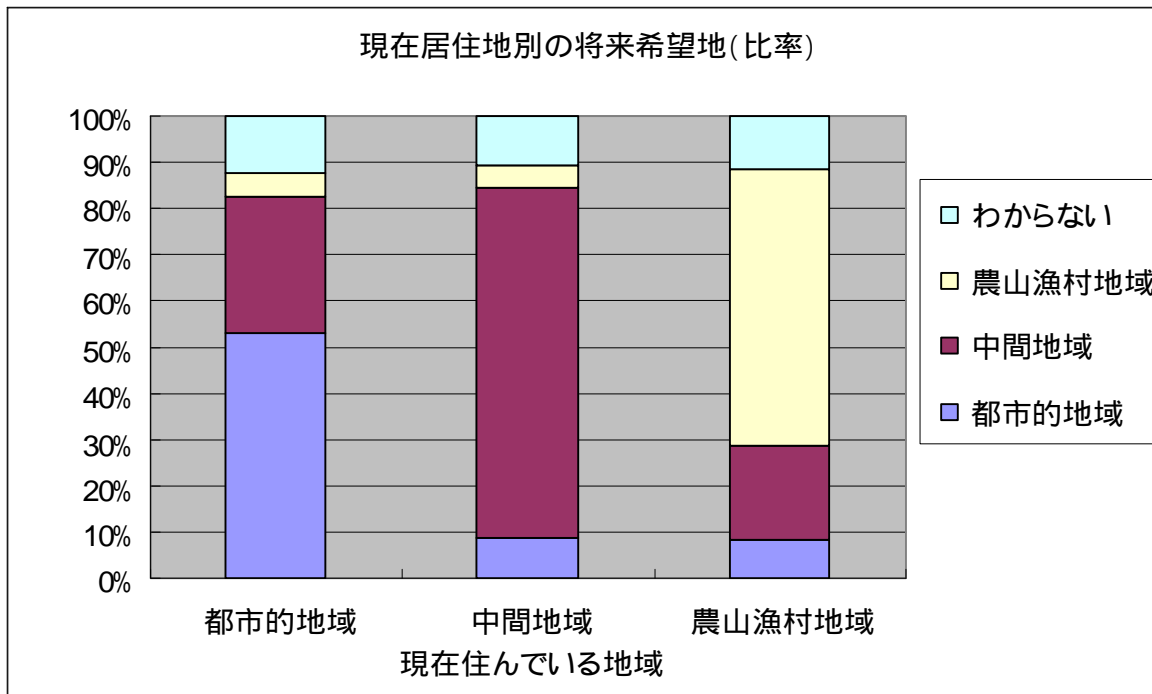
将来、どのような地域に住みたいか（住み続けたいか）を尋ねました。

ここでも、都市と農山漁村の中間的地域に住みたい（住み続けたい）と回答された方が、約半数という結果でした。適度に便利で、適度に自然が残る都市と農山漁村の中間的地域が、何かと都合が良いということでしょうか。





では、現在の居住地別に、将来どのような居住地を希望しているかを分析したのが次のグラフです。



都市的領域に住まれている方には、将来、都市と農山漁村の中間的領域に住みたいと考えている方が、相対的に多いことがわかります。

以上のアンケートの結果は、今後の都市と農山漁村地域との交流方策の検討・改善に活かしていきたいと考えています。